

## 作者の横顔

### あいさつが飛び交う 地域社会を願っています



▲1月号から「だんらん」を担当している上田勇夫さん。中央公民館に勤務し、家庭教育学級などを担当しています。

現在、あいさつの声が飛びかう地域社会、簡単なようで厳しい現実があります。

とくに、朝夕に地域内いたるところで大人と青少年たちとの声が飛び交うような社会であったら、素晴らしいことだと思います。

このような人間関係づくりを究極として願う、「青少年の奉仕活動・体験活動支援センター」の設立に際し、こうした文章を書き上げてみました。



はこの活動に参加することで、さまざまな年齢の人々と出会い、さまざまなことを体感させ青少年の一人ひとりに本来、心の内に持っている豊かな人間性の花を開かせ、自信を持って社会での生活を送らせたいのです。

現在の厳しい経済状況をはじめとし、少子化、核家族化など、今の青少年に大人社会が彼らに豊かな人間性を育ませることからいっても、なかなか厳しい状況にあるといえるのではないのでしょうか。

幼い時からの家庭内でのお手伝い

など家族としての役割分担や助け合う場の設定からはじまり、学校がどうしても中心にやってきた諸活動をさらに地域社会に意図的に大人をはじめ異年齢の多くの人たちと触れ合う場を設定する。

そして個々の存在を認め合い、社会では役割分担のあることを身体を通して理解させることが今以上に必要になってきた時代といえましよう。その一つが、この奉仕活動・体験活動という新たな舞台なのではないでしょうか。

今の時代だからこそ、一人でも多

くの青少年をそれら活動の場に参加させ、一人でも多くの異年齢の人たちと触れさせ『人間という生き物は互いに役割があるのだ。そして助け合い、支え合って生きていく動物なのだ。そして、自分の生きていく周りの人たちから己の存在を認められ、周りのみんなから自分は支えられているなあと感じる喜びこそ、人間としての本来の喜びなのだ』などを体感させる機会を多くしたいと思います。

冒頭のA男はあの日、このきっかけに巡り会ったのです。